

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲・乙 第 3202 号	氏名	大坂 直也
論文審査担当者	主査 新家 俊郎 教授 副査 中牧 剛 教授 副査 小野 賢二郎 教授		
<p>論文題名：Anti-inflammatory and atheroprotective properties of glucagon (グルカゴンの抗動脈硬化作用：動脈硬化モデルマウスにおける検討)</p> <p>掲載雑誌名：Diabetes and Vascular Disease Research. Vol.17 No.5 2020 年 doi:1479164120965183</p> <p>肥満症を合併した糖尿病の新たな治療薬として、グルカゴンとインクレチンの合剤 multiple agonist が注目されている。しかしグルカゴンの心血管系への影響は十分に解明されていない。著者らは、動脈硬化症モデルマウスを用いてグルカゴン持続投与が動脈硬化に及ぼす影響を検討した。</p> <p>高脂肪食で飼育した Apo-E 欠損マウスを生理食塩液群、低用量グルカゴン群、高用量グルカゴン群に振り分け、4 週間後に検体を採取した。</p> <p>グルカゴン投与群では空腹時血糖値が軽度低下した。動脈硬化進展を評価したところ、高用量グルカゴン群で大動脈プラーク面積の有意な低下が認められた。また腕頭動脈において IL-1β/IL-10 比が有意に低下し、血管炎症の抑制が動脈硬化進展抑制の機序のひとつと考えられた。</p> <p>グルカゴンの動脈硬化に対する影響を検討した研究報告はまだない。本研究はグルカゴン持続投与が動脈硬化性プラークを抑制することを初めて明らかにし、抗炎症作用が関与する可能性を示した。本論文は新しい知見を得ており、学術上価値のあるものと考えられる。</p> <p>本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載、500 字以内)